

平成29年度 授業エキスパートを目指す授業研究会 平成29年12月5日(火)

春日部市立桜川小学校

音楽

題材名「重なり合う音の響きを味わおう」
～和音の響きを感じながら、和音伴奏をつくる活動〔器楽・音楽づくり〕～ 第5学年



教材「静かにねむれ」の旋律、和音、低音のパートに分かれ、
和音の響きや移り変わりを感じながら、アンサンブルオルガンで和音伴奏をつくる活動



導入は、本時のねらいにつながる活動
即興的にリズムを選んで、リズムリレーをします



今まで学習したリズムパターンは、
掲示で日頃から活用



ねらいの提示
「和音伴奏を工夫してつくろう」
工夫の観点は
リズム、音色、強弱、速度など



互いの音を聴きながら、旋律・
和音・低音を合わせます



演奏が高まってきたところ
で「始まり方や終わり方も工
夫してみましょう」



工夫の方向性をグループで相談
「私たちの班は、やさしく演奏
したいから、リズムは・・・」

参会者からの声 研究会のあり方・全体的な感想

【協議の視点1】

グループで和音の音を分散し、一人1音の学習に取り組んだことは、和音全体の移り変わりを感じ取ることができていたか

- 6人で合奏する中で、自分の間違えた音を知覚し、弾き直しをする児童がいた。それは、和音の移り変わりを感受できていたからだと思う。
- 和音を一人で担当せず三人で分担して演奏したことは、技能習得に時間をかけることなく誰もが和音を感じ取る活動となり、よかった。

【協議の視点2】

リズム、音色、各声部のバランス、始まりや終わり方など、工夫する観点を明確にすることで、児童がグループで主体的に演奏の工夫をしていたか

- 決まっていることと工夫することが明確だったため、焦点化した活動が見られた。
- 児童が工夫の観点を様々試し、考え、そこから見つけ出していく一連の活動の流れが見られた。
- 授業者の「やってみたら」という声掛けがたくさんあったことも演奏をしながら思いや意図を高めていったことにつながったのではないか。

【アンケートから】

- 授業の流れ、教材の扱い等、ベテランの先生のおよき取組を参観し、大変参考になった。
- 授業者のお人柄をはじめ、児童をやる気にさせる環境づくり、言葉掛け、明確な指示、メリハリのある授業、たくさん勉強になった。
- 導入から展開までの一連の流れがスムーズだった。
- 同じ教材でも、様々な手立てでアプローチすることができると思った。
- いつも教えている題材が、ちょっとした工夫でこんなに良い学習となると分かり、勉強になった。
- 協議では、各自が児童の学びの様子や音の重なるの感受の様子を見つけ、話すことができたので、協議に深まりがあった。
- 小学校で学ぶことにもっと目を向け、小学校での学びがいきる中学校での授業づくりをしていきたい。



↓ 工夫→試す→修正を繰り返す



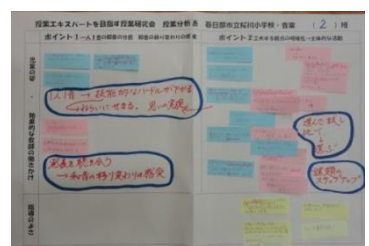
↓ 全体の前で演奏



演奏を聴いて、工夫が活かされているかをコメントする



協議の様子



授業分析表